



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年1月25日(月)

Vol. 320

暖かくにぎやかな新春を

秋元 秀夫

光陰矢の如しと言われますが、今日は既に大寒。我が家の梅のつぼみは大豆位、椿は親指位となって、ロウ梅は珍しくいつもの年より枝を伸ばして、光に映えて金色に輝いております。良いお正月をお過ごしのことと存じます。

先月のFAX通信の追伸に今年は商店会が音頭を取って地域の方々と一緒になって新年会のお骨折りをして下さいとお願い致しましたのは、私は公私含めまして毎年平均忘年会43回、新年会が20回くらいあります。昨年の忘年会、年初の新年会共に2次会はほとんどありませんでした。無駄遣いを進めるわけではありませんが、このままですとにぎやかであるべきお正月が寂しく、暗いものになるのではと心配したからであります。

新年の御挨拶で申し上げました様に、今年はまだまだ大企業、大型店は栄えても、地方の中小・自営業が苦戦する年と思われるので、年の初め位は景気よく、明るくにぎやかにスタートしたいと願ったからであります。

いつも口癖に申し上げております様に、不況、不景気は人の心の中に起こるものですから、困難な事があれば人は群れを作って集まり、経験を知恵として生かし合って、共に助け合ってきたから万物の霊長になれたのであります。

先日、内外情勢調査会で東大出身の若いエコノミスト飯田泰之氏とお逢いしてこの事をお話ししましたら、飯田先生は「その通りです。若い人たちはインターネットに答えを求めますが、インターネットでは新しいアイデアは生まれません。」

会社、行政、地域社会で色々な会合が持たれておりますが、古老、古参社員、女性が多く参加したにぎやかな人と人との会話の中で、新しいアイデアは生まれるものです。アイデアとは「下手な鉄砲も数撃てば当たる」であります。あきらめることなく、もう一回、もう一度とあきらめずにやり続けることです。下手な鉄砲撃ちも一人ではダメです。仲間が多くなければいけません。日本人の強い事はアイデアを具体化する能力が非常に高い事です。

君津は「商業的な農業」の立地条件を備えたところであります。都会の若者たちの力、大企業の窓際族の技術、人脈、経験を誘致して生産の高い農業へ移動させ、老若問わない後継者対策とすべきであります。人口減少は無い方が良いでしょう、悲観論だけでは解決できません。不足するから新しい技術、方法が生まれるのです。日本のロボット技術は世界のトップクラスであります。社長やリーダーになる人は社員と一緒に昼飯を食い、夜は晩飯を食い、酒を飲む仲間(必ず女性も入れて)を10人位は持つべきです。自腹の切れるリーダーでなければ仲間は出来ません。経済圏は30分エリアをしっかりと充実させることです。お互いに仲間それぞれの能力、特性、技術、度量等を見極め納得しておけば怖いもの無しの仕事が出来ます。

不安とは信頼できる友、仲間、家族がないからです。「会う事多ければ良き友となり、会う事なければ他人となる」であります。